

平成29年2月22日

発 言 者	発 言 要 旨
阿部（信）委員	<p>学校給食における地産地消促進事業の支援内容と減額補正の要因は何か。また、今後、学校給食への支援はどうか。</p>
6次産業推進課長	<p>学校給食への県産農林水産物利用拡大への支援（おかず支援）として、県産農産物利用による掛り増し経費の1/2（市町村1/2）に相当する1食あたり小学校で15円、中学校で20円（上限回数小学校28回、中学校26回）を支援している。また、県産農産物を使用した加工品、具体的には県産ヨーグルトを提供する支援として、1回あたり33円（上限回数4回）、掛り増し経費全額を支援している。</p> <p>今年度は、おかず支援で9市町村、県産ヨーグルトへの支援では13市町村が支援を活用していないため減額補正するものである。</p> <p>来年度は、新たに郷土料理の提供など、食文化の継承、さらなる地産地消を目的とした事業実施を予定している。</p>
阿部（信）委員	<p>学校給食における米粉利用推進事業の支援内容と減額補正の要因は何か。また、報道では、海外で、小麦粉からアレルギーの無い米粉に切り替え利用しているとのことだが、米粉輸出の可能性はどうか。</p>
6次産業推進課長	<p>県産米粉を使った麺やパン、おかず、デザートに対し、小麦製品との差額補助を行っているが、当初見込みより市町村での活用が少なかったことから減額補正するものである。</p> <p>国内では米粉の特性が認識される一方で、消費は伸び悩んでいる。そのため、県産米粉の利用拡大・定着に向け、県内製造事業者に対し、米粉を原料にしたギョウザの皮やパンなどの利用を働きかけている。今後さらに米粉の調理法やメリットなどを周知し、地域での利用を進めていく。</p> <p>一方、EU域内では、食物アレルギーであるグルテンを含む小麦粉に代わり、グルテンフリーの日本産米粉を利用した食品（ロールケーキ）を紹介する報道があったところであり、輸出については、需要先のニーズを把握したうえで、その可能性を検討していく。</p>
阿部（信）委員	<p>「つや姫」のブランド化の定着を図るためにどのような取組みをしていくのか。</p>
県産米ブランド推進課長	<p>消費者に知ってもらうことが大切であると考えており、ブランド米として認知度を高め、高品質・良食味の米を提供しながら価格を上げていくことがブランド化につなげていきたい。</p>
田澤委員	<p>農業委員会等に関する法律の改正前に選出された農業委員のうち、農業団体から選出された委員が団体の役職を離れた場合に、農業委員を失職せずに継続する旨の通知が出されているが、これはどのような趣旨か。</p>
農業経営・担い手	<p>全国農業会議所から農業委員会に通知が出されているもので、法改正に伴う</p>

発 言 者	発 言 要 旨
支援室長	新制度への移行にあたり、選出団体の役職からはずれても、選出団体の了解があれば引き続き農業委員を継続できるとの内容になっている。
田澤委員	最近、業務用米が足りず、新潟コシヒカリと同程度の価格になっているものもあるが、県としてどのような生産戦略を考えているのか。 また、農業所得の向上に向けてどのように取り組んでいくのか。
県産米ブランド推進課長	業務用米の市場は需要に供給が追いつかない状況である。主力品種の「はえぬき」は業務用で引き合いが強く、北関東コシヒカリより高値となっている。米全体の消費は、家庭用7割、業務用3割のため、家庭用・業務用のバランスを考えながら生産していく。 また、農家所得については、単価に加え、単収も勘案し、農家所得の向上につながるよう品種構成を考えていく。
田澤委員	環境保全型農業直接支援対策費が減額補正となっているが、どのような状況か。
技術戦略調整主幹	農林水産省から、各県の取組み要望額が多く、国の予算額が足りなくなりそうだという事前情報を得ていたため、今年度4月に各市町村を集め説明を行い、6月、10月にも、国からの情報が入る都度、情報提供を行った。 「第一取組」に加えて「第二取組」に取り組む農業者が全体の10%程度いるが、国からの交付額が90%程度になるとの情報を受け、市町村への説明の中で「第二取組」による交付金の支払いは厳しいとの話をしている。 最終的に「第一取組」は各市町村でほぼ予定通りの支払いとなることから、混乱は少なかったのではないかと考えている。
田澤委員	2月補正の予算説明附属書では、事業名に「TPP」と冠した事業があるが、米国が離脱を決定しており、来年度予算で「TPP」を冠した事業は計上できないのではないかと。名称だけでなく、県としてTPPへの対応をどのように考えているか。
農政企画課長	本県の農林水産業は、人口減少による国内市場の縮小、高齢化、担い手不足による農業就業者の減少といった構造的な課題がある。このため、来年度予算においても、TPPということでの対応に関わらず、こうした構造的課題に対応するため、産地の強化等を進め、競争力の高い農林水産業にしていくための予算としている。
松田委員	第3次農林水産業元気再生戦略で新規就農者の目標を4年間で1,400人としており、目標達成に力を入れていくべきと考えるが、新規就農者確保対策のうち、地域で育てる担い手育成支援事業はどのように進めているか。
農業経営・担い手支援室長	当該事業は、地域における新規就農者の受入協議会の取組みに対して支援しており、大江町を含め、7市町での取組みに支援している。
松田委員	大江町では、新規就農者による優良農地の入手が難しい状況にある。耕作放

発 言 者	発 言 要 旨
	<p>棄地はあるが、再生するのに労力と時間がかかるので、優良農地確保に対する支援を検討してもらいたい。</p>
<p>農業経営・担い手 支援室長</p>	<p>農地の確保・継承のため、来年度の新規事業として、新規就農者の受入協議会が事業主体となり、優良農地を確保し、就農希望者の研修の場として活用し、その後、農地を就農希望者に引き継ぐモデル事業予算を計上している。</p>
<p>松田委員</p>	<p>古寺のサクラマスふ化場の利用状況はどうか。</p>
<p>水産技術主幹</p>	<p>秋に河川に遡上したサクラマスの親を古寺に搬入し、受精卵にして内水面水産試験場等に運び稚魚生産している。また、遊佐町の内水面水産センターで池産系サクラマスの親から生産した稚魚を5月に古寺に搬入し、7～8月まで飼育し、放流用サクラマスとして各内水面漁協に供給している。さらに、ふ化場でサクラマスが飼育されていない時期は放流用のイワナ、ヤマメを飼育している。なお、冬期間は豪雪のため古寺ふ化場は閉鎖している。</p>
<p>松田委員</p>	<p>古寺まで上った魚から採卵・ふ化すれば、遡上も良くなると聞いた。また、古寺ふ化場の施設を十分活用できてないと思われるがどうか。</p>
<p>水産技術主幹</p>	<p>遡上の良し悪しはどこで採捕してもほぼ同じという結果があり、さらに月布川にはサクラマスが多く遡上しないため、他の漁協の協力も得ながら、赤川や最上川等に遡上した親魚も活用している現状である。</p> <p>また、冬期間は豪雪による交通障害や水が止まるなど厳しい状況のため、雪の無い時期の利用を考えていく。</p>
<p>松田委員</p>	<p>月布川に多くの稚魚を多く放流してもらいたい。近くの古寺鉱泉は町が管理・運営する予定で、現在、駐車場の拡張工事など環境整備を図ると聞いており、今後、活用してもらいたい。</p>
<p>加賀委員</p>	<p>県産農畜産物の放射性物質検査事業の減額補正理由は何か。今後も引き続き現在の検査体制を維持すべきと考えるがどうか。</p>
<p>技術戦略調整主幹</p>	<p>農畜産物放射性物質検査事業費の補正については、実際の事業実施見込みに伴う減額補正であり、検査対象範囲を小さくしたものではない。県の放射線モニタリング班が策定した放射線モニタリング実施方針では、「継続監視期」から「収束準備期」に移行し、風評被害対策を踏まえ、引き続き検査を行う予定としている。今後も県産農畜産物の安全性を明らかにし、県産ブランドの維持を図るため検査をしっかりと実施していく。</p>
<p>加賀委員</p>	<p>大豆、そばの高品質、高収量の確保に向け、今後の技術指導をどのように行っていくのか。</p>
<p>技術戦略調整主幹</p>	<p>大豆、そばとも重要な転作作物であり、両作物とも湿害を受けやすいことから、高品質、高収量を確保するためには排水対策をしっかりと行うことが大事だと考えている。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
加賀委員	<p>各総合支庁農業技術普及課の実証ほ等を用いて農家へ排水対策の徹底を図っていく。</p> <p>多面的機能支払交付金を減額補正した理由は何か。</p>
中山間振興・農地集積保全主幹	<p>多面的機能支払交付金は、農地維持支払、資源向上支払（共同活動）、資源向上支払（長寿命化）の3種類で構成されている。農地維持支払と資源向上支払（共同活動）は取組面積が前年度より増加し、国の交付金も満額配分された。資源向上支払（長寿命化）は市町村の要望が多く、国の配分が要望額を下回ったことから減額補正を行うものである。</p>
加賀委員	<p>資源向上支払（長寿命化）のニーズが多いが、国の予算が十分に来ないのであれば、国へ所要額確保の要望などが必要と思うがどうか。</p>
中山間振興・農地集積保全主幹	<p>国の予算増額は厳しい状況と聞いているが、引き続き本県への所要額配分を国に要望するとともに、事業費が200万円を超える工事や緊急性のある長寿命化対策については、他の補助事業の活用検討も含め、地域の実情に応じた指導を行う。</p>
加賀委員	<p>ナラ枯れ被害緊急対策事業について減額しているが、その理由は何か。</p>
森林保全主幹	<p>県と市町村では、森林公園など守る必要のある重要なナラ林を「特定ナラ林」として定め、重点的な防除対策を実施しているが、今年度は「特定ナラ林」での被害量が見込みを下回ったため減額したもの。</p>
加賀委員	<p>県内のナラ枯れ被害の現状はどうか。被害が終息している地域がある一方で、被害が拡大しているところもあるのか。</p>
森林保全主幹	<p>ナラ枯れ被害は平成27年度までは減少していたが、今年度は西村山地域のように被害が増加しているところがある。</p> <p>ナラ枯れは、旧朝日村から北上し庄内地域へ広がり、最上地域を經由して村山地域に入ってきたルートと、小国町に南下して置賜地域を最上川から北上してきたルートがあり、現在、西村山地域に被害が集まっている。</p>
加賀委員	<p>被害が拡大している地域もあるとすれば、集中してしっかりと防除していくよう要望する。</p>
加賀委員	<p>大豆、そばの平成28年産の生産量と品質はどうか。また、今後の技術指導はどのように取り組んでいくのか。</p>
生産振興主幹	<p>平成28年の大豆生産量は7,830tで全国8位、そばは1,840tで全国3位である。品質は3月に発表される予定である。</p> <p>なお、今後は、JAなど関係機関と連携しながら、収量や品質で大豆交付金が有利となるため、「大豆は儲かる」という観点から指導していく。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
高橋委員	平成30年4月から主要農作物種子法が廃止になると聞いているが、県としてどのように捉えているか。
生産振興主幹	同法が廃止になることは把握している。これに関する農林水産省からの通知もなく、現在、多方面から情報収集している。
高橋委員	農業機械化促進法が廃止の方向で審議が進められると聞いているが、県としてどのように捉えているか。
技術戦略調整主幹	同法が廃止された場合、特定高性能農業機械の導入計画などに影響が及ぶことが想定されることから、国の動向も見ながら引き続き情報収集に努め、対応を検討していく。
高橋委員	これらの法律の廃止は水稻種子の分野に民間や海外からの参入を進める動きの現れと思うが、廃止になった場合、県はどう対応していくのか。
生産振興主幹	種子は発芽率が作柄や品質に影響するため、コメのブランド化を進めるにあたり、品種本来の特長を発揮する優良な原種・原原種（種子）をしっかりと供給していく。
高橋委員	水稻の直播栽培の実施状況と今後の取組みはどうか。
技術戦略調整主幹	<p>本年度は2,366haで作付され、昨年度に比べ272ha増え、13%の伸びとなっている。地域別の内訳は、庄内65%、村山15%、最上と置賜がそれぞれ10%となっている。</p> <p>栽培方式では、種もみの鉄コーティングを中心に増えている。従来までの直播栽培は、鳥に種もみを食べられる、出芽が安定しない、雑草が増えるという三つの課題があったが、鉄コーティングした種子を播くことで発芽が安定し、鳥に食べられることもなく取組みが大きく伸びる要因となっている。現在、直播栽培のマニュアル作成を行っており、各総合支庁農業技術普及課の実証ほ等での紹介などを行いながら普及させていく。</p>
渋間副委員長	農作業中の事故の発生件数とその要因はどのようになっているか。
技術戦略調整主幹	<p>平成28年の1年間に発生した全治1か月以上の重大事故は23件で、このうち4件が死亡事故であった。また、ケガをした19人のうち13人が60歳以上の方であった。果樹での事故が14件と最も多く、このうちさくらんぼに関するものが12件と全体の半数を占めており、収穫作業中の脚立からの転落、ハウスをかける作業中の転落などが多く、豊作だと事故も多くなる傾向がある。</p> <p>過去10年間の平均は、重大事故が16.2件、このうち死亡事故は5.5件で、平成28年度は重大事故が平均を上回っている。</p>
渋間副委員長	これから本格的な農作業シーズンとなる中で、これまでの傾向を踏まえ、対策を講じていく必要があると思うがどうか。

発 言 者	発 言 要 旨
技術戦略調整主幹	<p>県では、毎年4月10日から11月30日まで「農作業事故防止啓発運動期間」として、特に事故が多い春と秋の農繁期とさくらんぼの時期を重点期間として、チラシの配布や広報車での呼び掛け、ホームページ等での啓発を行っている。平成26年度に作成したさくらんぼ作業中の事故防止に関するパンフレットやポスターなどを活用し、さくらんぼの時期を重点に、各総合支庁農業技術普及課が中心となり啓発運動に力を入れていく。</p>